

平成28年度工業標準化事業表彰 「国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）」受賞

2016年10月6日に先進技術研究所の河合 邦浩氏は、経済産業省平成28年度工業標準化事業表彰において、「国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）」を受賞しました。

工業標準化事業表彰は、高度な標準策定能力を有し、標準化を企業戦略に生かせる人材育成の強化を図るため、国際標準化機構（ISO：International Organization for Standardization）や国際電気標準会議（IEC：International Electrotechnical Commission）における国際標準規格策定や、国内標準である日本工業規格（JIS：Japanese Industrial Standards）策定といった、標準化活動に優れた功績を有する方、組織を表彰するものです。これらのうち国際標準化奨励者表彰は、標準規格の策定や適合性評価活動に貢献し、今後とも継続的な活動が期待される方に贈られます。

河合氏は、IEC/TC47（半導体デバイス）/SC47E（個別半導体デバイス）/WG2の国内委員として、高周波・マイクロ波通信用半導体デバイスの規格群 IEC60747-4（マイクロ波ダイオードおよびトランジスタ）およびIEC60747-16（マイクロ波集積回路）の改訂に尽力しました。また最新の日本提案 IEC60747-16-6（周波数逡倍器）ではドラフト作成に携わるなど、日本の国際標準化活動に積極的に貢献しました。これらの規格は、電波の元となる高周波電気信号を適切な品質で、所望の大きさや周波数とするために用いられる半導体部品の性能の定義とその測定法を規定するものです。これに準拠した半導体部品の性能は、適切かつ統一された定義および測定法に基づいて取得されていることが保証されます。例えば、ドコモの携帯電話の基地局装置や端末において用いられる半導体部品がこれらの規格に準拠していれば、それがどのような半導体部品であったとしても、基地局装置や端末における性能の確からしさは損なわれることがなく、無線通信回線品質の確保に寄与することが期待できます。また同じ性能を有する半導体部品が複数ある場合には、どれを選んでも性能が担保されることから、基地局装置や端末メーカは安心してより安価な製品を選択することが可能となり、結果としてこれら装置の価格低減に寄与することが期待できます。

今回、河合氏の上記に示した国際標準化活動に関わるこれまでの貢献が評価され、引続き同活動への寄与が期待されることから、今回の受賞となりました。

